アンケートの精神発達及び心の健康項目の意味と適用

川　井　　尚（東京都精神医学総合研究所・臨床心理研究室）

1．アンケート方式の留意点

あらかじめ，子どもの精神発達や心の健康に関する項目に，母親がチェックし，健診の際持参してもらうアンケート方式は，この領域でのスクリーニングを的確に，しかも効率よく行うための，補助手段として用いられるものである．アンケート方式を利用する上で，基本的に留意すべき点は，スクリーニングの補助手段であるにすぎないということであり，この項目のみで，精神発達や心の健康に関して，判断してはならない．即ち，ネガティブとされた項目は，母親によく確かめ，更に母と子をよく観察し場合によっては発達検査を行う等で確認してほしい．アンケートからは要注意のシグナルのみがくるのであって，それを確かめ判断する作業は医師・保健婦，心理相談員などの「ひと」でなくてはならない．この第二段階が本物のスクリーニングであって，アンケートにスクリーニングを任せ，アンケートを一人歩きさせてはならないのである．ここでどうも心配だと判断されたとき，事後措置としての精密検査なり，発達と心の健康に関する相談過程にすすむことになる．

2．アンケート項目の選定

表1に示した項目後4から9までは，精神発達に関するものであり，標準化された発達検査，スクリーニング検査からこの時期のスクリーニング目的と合うよう，全体運動，微細運動，視聴覚，言語，社会的応答性等の各領域から選定した．なお，スクリーニングという目的から，大多数のものが通過し，助けを必要とする子どもがのこるよう，ほぼ85%以上の通過率を示すものを選定した．項目10は子どもの心の健康に対し重要な役割を果たす母子関係の機能をみる項目であり，項目11，12は同じく子どもの心の健康と関連する母親の心身の健康状態を知るための項目として選んだ．項目13の父親の育児への協力は，核家族化や家庭機能の低下が問題とされる現在必要であろうと思われ，従来，関心のうすい父親に関する関心を喚起するために選んだ．項目14は，積極的に行動的問題を拾おうとするもので，自閉傾向や多動傾向を主としてねらい選んだものである．

3．各項目の発達的意味について

「4．ひとりで上手にあるけますか」

この項目は全体運動の発達を示すもので，ただ歩くというのではなく，バランスをよくたもち，めっ

都道
府県

区市
町村

殿

お子さんの健康診査を次のとおり実施しますので，ぜひお出かけください。

月　日　時から　　場所＿＿＿＿＿＿＿＿

なお下記質問票および裏面のアンケート（No1－15）に記入し当日母子健康手帳といっしょにお持ちください。

お子さんの氏名　　男　女　　出生の予定日　昭和　年　月　日

昭和　年　月　日生　　出生時の体重　　g

電話　　出生時の身長　　cm

質問票記入者氏名　　続柄　　出生時の異常　ない
ある（　　）

今までの重い病気　ない
ある（　　）

［家族歴］

今までにひきつけたこと　ない
ある（　）

父　　歳　1．健康　2．病気
3．特記事項（　　）

母　　歳　1．健康　2．病気
3．特記事項（　　）

姉　　人　1．健康　2．病気

弟妹　　人　1．健康　2．病気

健診時の体重	g（　　）
健診時の身長	cm（　　）

＊枠内は記入しないでください。

あらかじめ，このアンケートに記入し，健診日に必ずお持ちください。

1歳6か月児健康診査アンケート

あなたのお子さんについて次の質問に対してどれか当てはまる答えを○で囲んでください。

1．からだの異常や心配なことがありますか。　ない
ある…(1) 目がよくみえない
目つきがおかしい
(2) 耳が遠いように思う
(3) その他具体的に
（　　）

2．からだの発育について心配なことがありますか。（身長，体重など）
ない
ある…（　　）

3．食事について心配なことがありますか。　ない
ある…（　　）

4．ひとりで上手に歩けますか。　はい　いいえ　わからない

5．ほしぶどうのような小さいものを指先でつまんでひろえますか。　はい　いいえ　わからない

6．みえない所から名前を呼ぶとその方をふりむきますか。　はい　いいえ　わからない

7．意味のあるかたことを言いますか。（たとえばお母さんを「ママ」，自動車を「ブーブ」など）　はい　いいえ　わからない

8．オモチャの自動車を走らせたり，人形を抱いたり，食べるつもりなどのふり遊びをしますか。　はい　いいえ　わからない

9．テレビやおとなの身振りなどのまねをしますか。　はい　いいえ　わからない

10．具合が悪かったり，何かこわいことがあるとお母さんなどなじみのある人にしがみついたり，あと追いしてお母さんといるととても安心しているようですか。　はい　いいえ　わからない

11．お母さんはゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がありますか。　はい　いいえ　何ともいえない

12．お母さんのからだや気持ちの状態はよろしいですか。
a．心身とも快調　b．からだはいいが精神的によくない
c．精神的にはよいが，からだが不調　d．心身ともに調子が悪い
e．何ともいえない（　　）

13．お父さんは育児に協力してくれますか。　はい　いいえ　どちらともいえない

14．だれがいてもまるで人がいないかのように全く無視して動きまわっていますか。　いいえ　はい　わからない

15．心配なことがあり，相談したい。　いいえ　はい（　　）

健診においでになれない方は返信はがきに必要な事項を御記入のうえお送りください。（切手をはる必要はありません）

たにつまづいたり転んだりせずに歩くということである．この時期，殆どの子どもは走ることもできる．歩き方がへただという場合，熟練した観察者ならば，歩き方，その際の姿勢，足先の観察によって単なるおくれか軽いC．Pがあるかなどの判断をかなりの程度にできるものである．また，この時期まで歩かないという場合，身体的な異常のみ，たとえば先天性股関節脱臼（先天股脱）などによることはまずない．また，歩き方がおかしい場合には系統的骨疾患なども否定しておかねばならないが，これは体型の異常があるので鑑別はむずかしくない．転びやすい場合にはいつも一定方向に転ぶようだと脳神経系の疾患とくに脳腫瘤を除外しておく必要がある．（東京女子医科大学　村田光範教授による）

精神発達の観点から，自由に歩けるということは，子どもと「ひと」「事物」との相互作用を活発にしかも豊かにし，子どもの認知世界がさらに広がることを意味している．母親をはじめとするひとにも自分から積極的に働きかけ，あと追いもできて，ひととの相互作用を自ら維持できるのである．歩くという身体運動発達も，このように全体的な精神発達と結びついている．歩くという能力を，その子どもがどのように使っているのかをよくみておきたい．項目13のような歩行能力の使い方は発達にとって，ポジティブな効果をもたないといえる．補助質問としては「拾って立つ（体をかがめて床の上のものを手をつかずに拾って再び立つ）」，「階段を手をひかれてのぼる」があげられよう．

「5．ほしぶどうのような小さいものを指先でつまんで拾えますか．」

微細運動の発達を示すもので，手指運動の巧緻性と目との協応運動をみるためのものである．ほしぶどうは小さく，ころがらないのでテストしやすい材料であり，また口に入れてしまうことがあっても安全なものなので例として上げたがこれ位の大きさで安全なものであれば何でもよい．ほしぶどうをみつめ，そこに手がズーッとのび，主に親指と人さし指をつかってつまみあげればよく，このとき中指が参加してもかまわない．これができる前段階では，親指と人さし指は対抗してはいても，全指を同時にひっかくようにして握りこんでしまう．

物の微細な操作にとって親指と人さし指の巧みな動きと目との協応が大切であることは，我々の日常の作業をみても納得できよう．

また，小さなものをつまみあげるには，しっかりみるという視覚注視，さらに追視があり，その視覚と運動とが協応しなくてはならない，この意味で，本項目には視覚運動も含まれているといえる．視覚行動そのものの観察には赤い輪（直径4インチ），毛糸玉をつかって注視，追視をさせてもよく，このとき眼球振とう，斜視なども観察できる．

「6．みえない所から名前を呼ぶとその方をふりむきますか」

子どものみえない所から名前を呼んで確実にふりむくことである．声にふりむくのは既に5，6か月で殆どの乳児ができるのであって，ここでは人の声を聞き分ける聴力と同時に，自分の名前がわかっていることが大切である．そこで補助質問として「自分の名前がいえる」という項目もよく，単に聴力の問題だけにとらわれずに，行動観察をしっかり行ってほしい．

「7．意味のあるかたことを言いますか．たとえばお母さんを「ママ」自動車を「ブーブ」等」

言語，それも話しことばの発達をみる項目であり，ママは自分のこのママのことをのみ正確にさしており，年齢や様子の似ている女の人を全てママとはいわないということが重要なポイントである．

意味のあることばとは，次のようなことである．例えば，もともと”マ”という音は意味をもたないものである．その”マ”の音をつづけて”ママ”というとき，意味のない音が自分の母親を表す，母親をその音で代表させ意味をもたせることができるということを示しているのである．

この時期，ママといえなくても，「ママは」ときかれて指をさすことができたり，項目8のごっこ遊びがきれば，言語的知能の基礎構造はできていると考えられるので経過をみたい．

話しことばの補助質問として「一がほしいときどうするか」ときき，ことばで要求するか，指さし，ジェスチャーをもちいるか等コミュニケーションの様式をみるとよい．また，ことばがないときに，母親の口をみるか，発音をまねようとするか，あるいは項目9の模倣があるか等をみて，話しことばの獲得への過程にあるかどうかを確かめたい．

精神遅滞の場合は，話しことばのみではく，他の発達項目にわたって，問題がみられ，一方，言語環境に問題があり，話しことばのみ選択的におくれる場合には，項目8のごっこ遊びや，4，5の運動発達など，他の発達領域に問題がみられないので観察や検査を合わせ行えば，この判別は比較的容易である．

これには，①言語刺激の不足（母子相互作用の希薄さ等）②言語刺激の不適切さ
③言語の必要性に欠ける環境④言語の学習意欲を失わさせる環境　があげられる

「8．オモチャの自動車を走らせたり，人形を抱いたり，食べるつもり等のふり遊びをしますか．」

子どもの発達は，遊びの変化（ものとの相互作用）を通してみることができる．

ここでは現実の自動車や人や食べ物について，その形状や機能をある程度理解し，それを生かしながら，かつそれが本物でないことがわかり，本物のつもりになって遊ぶことができることを意味している．自動車をただ並べたり，投げたりといった意味のない，つまり自動車のもつ性質，機能とは無関係な扱い方ではないということがポイントである．この遊びの段階は，乳児期の感覚運動的知能から幼児期の表象機能をもつ言語的知能との中間に位置している．

しばらくすると意味のない木の塊（積木）を構成して自動車にし動かす等言語的知能を表す遊びも出現してくる．

「9．テレビやおとなの身振りなどのまねをしますか」

幼児番組やコマーシャルの仕草をほんの少しでもまねたり，母親の掃除，食事の仕度，お化粧，父親の仕草のまねができればよい．但，後述のように，社会性の発達からみれば，人の身振りのまねの方が，重要であり自閉傾向のチェックを考えてもこの点を確かめておきたい．精神発達のなかで模倣の果たす役割は極めて大きいものといえる．

厚生省母子相互作用研究班，昭和６０年度研究報告書

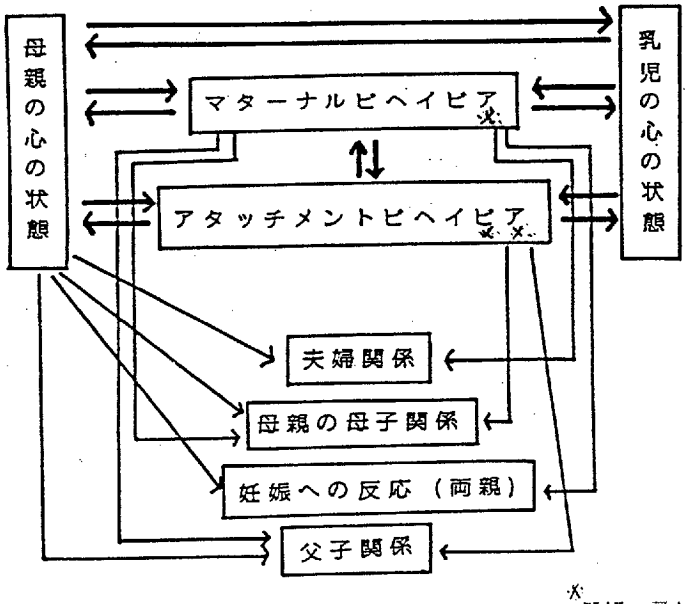
② 川井　尚，平山宗宏，高橋種昭，窪田英夫ほか，三歳児健診における心理社会面チェック指標の策定に関する研究　小児保健研究４４（５），611-614，１９８５．

「１２．お母さんのからだや気持ちの状態はよろしいですか．」

母親の心身の状態を直接きいたもので，項目１０の母子関係，項目１１と合わせて母子への特に心の健康に焦点を合わせてみてほしい．次に乳児期と三歳児の結果をあげておく．

	心身状況	身体はよいが精神的不調	精神的によいが身体的不調	心身不調	何ともいえない
①8－1歳	67．8%	7．9%	9．6%	2．6%	10．1%
②3歳児	63．5%	8．5%	7．1%	1．4%	13．0%

図1　領域間の有意な関連



※母親の子どもへの母性的行動

※※子どもの母親への愛着行動

図１は①の調査の分析結果であり，矢印で示したように，母親の心の状態と乳児の心の状態は，まさに，相互関係にあることが明らかである．特に，幼少期は母親の健康がより重要であり，母親へのサポーティブな心身にわたる援助が必要であろう．

「１３．お父さんは育児に協力してくれますか．」

乳児期から幼児期にかけては，母子関係がクローズアップされ，父子関係については，従来余り関心が払われてきていない．子どもの心身発達と健康は，母親のみによるのではなく，父子関係や，その他のより広い人間関係も大切な役割を果たしている．全国的に，核家族化がますます進み，それも，孤立化の傾向にあり，このような状況のなかで，母親のみが育児，家事を負うとすれば母親の心身にネガティブな影響を与え，母子関係も順調な発達を阻害され，さらに，家庭機能の低下を招くことになる．乳幼児健診において，はじめて，父親に関する項目を設けたので，育児への協力という表現をとった．今後，活発になると考えられる乳幼児期の父子関係研究の成果と健診での経験を基に更に適切な父子関係に関する項目を作成したいと考える．

「１４．だれがいてもまるで人がいないかのように全く無視して動きまわっていますか．」

この項目は主として自閉傾向をチェックするために設けた．この年齢では，動くこと自体が楽しく，行動量も多いのではあるが，ここでは通常を上まわる多動性をさしているので，実際に確かめてほしい．なお，自閉症児の多動は，彼独自のルールに基づいてその目的のために動いていること，そして，母親をはじめとする人を意識しないかのように，全く無関心であるかのように動きまわるところに特徴がある．同時に，こちらが顔を合わせようとしてもいつも巧みに目をそらしてしまう，みつめ合うことのできなさをもっている．ここにチェックされたとき，このみつめ合があるかどうかもきき，実際に行動をたしかめてほしい．話しことばがないことが多く，あっても伝達的でないこと，人への応答性の欠如も大切な特徴である．

なお，脳障害による多動もこの項目でチェックされることが考えられる．この場合の多動は，抑制の欠如によるもので，入ってくる刺激に直ちに反応し，運動発作の如く動きまわることが特徴で，自閉症児のように，彼独自のルールがあるとはかんがえられない．また，みつめ合い，人への応答性もみられる．ただし，この両者をこの時期にみわけることは困難であり，精密検査や，事後の相談過程のなかではじめて，明確となることが多い．

「１５．心配なことがあり，相談したい．」

従来のアンケートでは，心配なことの有無のみをきいていたが，ここではより積極的に，相談行動としてとりあげた．その理由は，第一に，その子どもについて，たとえ不正確で，思い違いあるいは，歪みがあるとしても，それでも一番よく知っているのは母親であり，この意味で，母親がスクリーニングの一番手であると考えるからである．第二に，思春期以降の心の臨床研究から幼少期に子どもの心の危機信号をキャッチし相談行動をおこす人と，信号をキャッチできないか，あるいは無視して思春期の激しい行動化（暴力や登校拒否，やせ症など）や親がおいつめられて，はじめて相談行動を起こす人があり，後者の場合その臨床的援助がより困難である．従って，親の相談行動を促す意味でも，この表現をとった．

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1.アンケート方式の留意点

あらかじめ,子どもの精神発達や心の健康に関する項目に, 母親がチェックし, 健診の際持参してもらうアンケート方式は,この領域でのスクリーニングを的確に,しかも効率よ行うための, 補助手段として用いられるものである.アンケート方式を利用する上で, 基本的に留意すべき点は,スクリーニングの補助手段であるにすぎないということであり,この項目のみで,精神発達や心の健康に関して,判断してはならない.即ち,ネガティブとされた項目は,母親によく確かめ,更に母と子をよく観察し場合によっては発達検査を行う等で確認してほしい.アンケートからは要注意のシグナルのみがくるのであって,それを確かめ判断する作業は医師・保健婦,心理相談員などの「ひと」でなくてはならない. この第二段階が本物のスクリーニングであって,アンケートにスクリーニングを任せ,アンケートを一人歩きさせてはならないのである.ここでどうも心配だと判断されたとき.事後措置としての精密検査なり,発達と心の健康に関する相談過程にすすむことになる.